

為替週間展望 = ドル円は引き続き 108 ~ 109 円台での推移か

[12月9日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		12月2日 ~ 12月6日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	109.51	109.73(2)	108.43(4)	108.69	-0.80
ユーロ・ドル	1.1013	1.1116(4)	1.1003(2)	1.1104	+0.0086

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	23,354.40	+60.49	日本10年債利回り	-0.001	+0.072
ダウ平均株価	27,677.79	-373.62	米10年債利回り	1.810	+0.035

=====

< 来週の主要経済統計等 >

- 9日 日本第3四半期国内総生産 (GDP) 2次速報、日本10月経常収支
スイス11月雇用統計
独10月貿易収支、独10月経常収支
- 10日 中国11月消費者物価指数、中国11月生産者物価指数
英10月鉱工業生産指数、英10月製造業生産指数、英10月貿易収支
独12月ZEW景況感指数
米第3四半期非農業部門労働生産性指数
- 11日 米MBA住宅ローン申請件数
米11月消費者物価指数
米11月財政収支
米連邦公開市場委員会 (FOMC、10~11日) 政策金利発表
パウエルFRB議長記者会見
- 12日 日本10月機械受注高
独11月消費者物価指数
スイス11月生産者・輸入価格
スイス銀行政策金利
ユーロ圏10月鉱工業生産指数
欧州中央銀行 (ECB) 政策金利
ラガルドECB総裁記者会見
米11月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数
- 13日 日銀短観 (12月調査)
日本10月鉱工業生産指数
米11月小売売上高、米11月輸入価格指数

【前回のレビュー】米中関連のニュースや米経済指標に振り回されつつも、ドル円は108 ~ 109 円台で推移するとみられ、米中が貿易協議の合意に向けてさらに前進して、米経済指標も良好であれば110 円の大台乗せの可能性も出てくるとした。

【トランプ発言で金融市場は右往左往】

トランプ米大統領の発言や米中関係の報道に振り回される展開が続いている。2日に11月のISM製造業景気指数が予想や前回を下回ったことでNYダウは268ドル安と大幅安となった。トランプ米大統領がブラジルとアルゼンチンから輸入する鉄鋼とアルミニウムへの関税を復活させる意向を明らかにしたことも圧迫要因となった。

なお、米国の香港人権法案成立を受けて、3日に中国は米海軍艦船の香港寄港を拒否

する措置を決定した。中国外務省は「情勢の進展に基づき一層の必要な行動を取る」とし、追加制裁の可能性も示唆している。

さらに3日にトランプ米大統領が、「中国との貿易合意に期限はなく、来年の米大統領選後でも良い」と述べたことで、早期の第1段階合意への期待感が大きく後退した。米中協議の長期化や米中対立への警戒感もあって、米国株は3日続落してNYダウは280ドル安となり、リスク回避の円買いの動きからドル円は108円台半ばまでドル安円高が進んだ。

米下院がウイグル人権法案を圧倒的多数で可決しており、米中対立激化への警戒感も売りにつながった。4日の日経平均は244円安となり、この日のロンドン市場でドル円108円台半ばまで下落した。

ところが、4日のNY市場では米中貿易協議の第1段階の合意が近づいているとの報道を背景にセンチメントが一変した。米国株は反発して、NYダウは146ドル高。ドル円は109円手前まで上昇。米10年物国債利回りは1.78%前後まで上昇した。5日は翌日の米雇用統計の発表を控えて小動きながら、NYダウは28ドル高と小幅続伸。ドル円は108円台後半でもみ合いとなり、米10年物国債利回りは1.8%台を回復した。

【FOMCでは政策金利は据え置きか】

トランプ発言や米中協議報道に翻弄される金融市場ではあるが、10～11日には米連邦公開市場委員会（FOMC）が開催される。今回、政策金利は据え置きとなる見通し。CME FEDウォッチでは、9日時点で据え置き確率が99%前後となっている。

米連邦準備制度理事会（FRB）も今回の利下げには消極的とみられる。なお、声明で景気認識がどうなっているか、パウエル議長の記者会見での発言などが注目される。トランプ米大統領はFRBに利下げ圧力をかけてくるとみられるが、今回のFOMCでの利下げはなく、来月以降のFRBのスタンスにどう影響するかが注目される。今回はFOMCメンバーによる政策金利見通しが発表される回に当たっており、来年以降の景気判断や利上げ、利下げに関するスタンスが注目される。

ドル円は米国の経済指標よりも米中貿易協議関連の報道やトランプ米大統領の発言に振り回されるケースが目立っている。今回のFOMCでは政策金利は据え置きの見通しのため、FOMCメンバーによる景気や政策金利見通しによほどの振れがない限りが極端な動きとはなりにくそうだ。ドル円は108円台前半では底堅いとみられ、引き続き108～109円台での推移が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、108.00～109.75円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、9日に日本第3四半期国内総生産（GDP）2次速報、日本10月経常収支、10日に米第3四半期非農業部門労働生産性指数、11日に米MBA住宅ローン申請件数、米11月消費者物価指数、米11月財政収支、米連邦公開市場委員会（FOMC、10～11日）政策金利発表、パウエルFRB議長記者会見、12日に日本10月機械受注高、米11月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数、13日に日銀短観（12月調査）、日本10月鉱工業生産指数、米11月小売売上高、米11月輸入価格指数などがある。

【ユーロドルは1.1200ドル手前で戻り一服か】

ユーロドルは1.1000ドル近辺では底堅く、上昇に転じた後は1.1100ドル近辺まで上値を伸ばしている。ユーロ独自の材料で動いたというよりは、米中貿易協議に関する報道を受けてのドルの動きや、堅調な動きを見せるボンドに追随したという流れになっている。12日に総選挙を控える英国で保守党が勝利するとの期待感からボンドが上昇基調にあり、これがユーロの支援材料となっている面もある。ユーロ独自の買い材料に乏しく、10月21日の高値1.1179付近までは戻しても、1.1200ドルの節目回復は難しいとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0980～1.1180ドル。

12日にはラガルド総裁が就任後初めての欧州中央銀行（ECB）理事会が開催される。9月の理事会でマイナス金利の深掘りや量的緩和の再開などを決定しており、今回は金融政策に変更はないとみられる。ラガルド総裁は、マイナス金利深掘りや量的緩和再開について、各方面から異論が出ていることから、これらについて効果や副作用などを点検する方針と伝えられており、何らかの方針や方向性が示されるかが注目される。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、9日にスイス11月雇用統計、独10月貿易収支、独10月経常収支、10日に中国11月消費者物価指数、中国11月生産者物価指数、英10月鉱工業生産指数、英10月製造業生産指数、英10月貿易収支、独12月ZEW景況感指数、12日に独11月消費者物価指数、スイス11月生産者・輸入価格、スイス銀行政策金利、ユーロ圏10月鉱工業生産指数、欧州中央銀行（ECB）政策金利、ラガルドECB総裁記者会見などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断をお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。